

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770600090		
法人名	社会福祉法人志度玉浦園		
事業所名	グループホーム志度玉浦園		
所在地	香川県さぬき市志度1610-1		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町受理日	平成24年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiryousoCd=3770600090-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JiryousoCd=3770600090-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>フロアの広さを活用して、歩行運動・転倒防止体操・リハビリタオル体操を毎日実施している。グループホーム独自の畑があり、そこで収穫した野菜類を使い、食事に一品添えたり、おやつ作りに活用したりと利用者の方々も楽しんでる。食事面では、野菜中心に軟らかく調理しているので、ほぼ全員の方が全量摂取できている。</p> <p>外出支援では、野外活動時に家族の方とともに外食を楽しんだり、季節の行事を取り入れたりと、いろいろ工夫を凝らしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>事業所は、街や瀬戸内海が眺望できる自然豊かな丘陵地にあり、特別養護老人ホーム等の建物と繋がっている。居室・食堂・共用室・廊下等、ゆったりとした広い生活空間は、利用者の健康と日常生活を導いており、笑い声や会話、歌声等が聞こえる穏やかな暮らしを支援し、家族の安心と信頼を得るよう努めている。法人の理念に基づいて、利用者の意志及び人格を尊重し、利用者が有する能力に応じた食事・排泄・入浴等の生活支援を実践している。また、昨年度から法人として介護等意見反映制度を取り入れて、利用者・家族・職員の意見等の申し出を運営適正化委員会で検討し、より良いサービスの提供に努めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念(職員心得)を作成しており、利用者がその人らしく生活できるよう支援して行くことをケアの目標として、日々の介護に活かしている。	法人の「基本理念」、「介護理念」、「グループホームの職員心得」と年間計画を、事業所の運営やサービス提供の拠り所とし、職員は日々の実践の中で、理念に立ち戻るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の軒数が少ないうえに世帯が若いので、昼間は人がおらず、日常的な付き合いは困難である。	近隣住民との日常的な交流はできにくい環境のため、同法人の特別養護老人ホーム等との行事交流や地域の行事へ参加をする等、地域と繋がりが持てるよう工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症サポーター養成講座を開催したり、勉強会を開催したりする中で、話し合い、理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や活動状況等の報告を行い、意見をいただいている。地域の行事等の情報を参考に、参加のきっかけとしている。	偶数月に運営推進会議を開催し、市担当者、市地域包括支援センター職員、老人会会長、元民生委員、家族代表、ボランティア代表が参加して意見交換を行い、事業所への理解と協力をいただけるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上疑問点があれば、その都度問い合わせをし、理解することにより、質の向上を図っている。	毎月の報告時や運営推進会議等の機会を捉えて相談し、現状や問題等に対してアドバイスを受けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束については認識しており、身体拘束はないのが現状である。	玄関の外が急坂で負傷者が出たために玄関外側の施錠をしているが、利用者の必要に応じて玄関の開閉に努め、広く空間を取った玄関内側ドアや、居室や居間からのベランダへの出入りは自由にできる。職員は、利用者の安心と安全に注意し、身体拘束について正しく理解した支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、職員研修を行ったり、虐待が見過ごされないように職員同士で言動等について注意を払っている。マニュアルも作成している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修において、内容を理解し、必要性についても話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づいて、十分な説明を行っている。解約時は、本人・家族とともに十分に話し合い、納得を得たうえで手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見反映制度を実施し、「介護等意見申出書」により意見や要望を聴くよう努力をし、今後の運営に反映させている。	家族の面会時等には必ず意見や要望を伺い、連絡ノートや毎月のグループ会議で職員に周知している。また、法人で昨年度から実施している「介護等意見申出書」を配付し、いただいた意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の運営委員会を事業所全体で実施し、意見を出し合っている。	管理者は、職員が意見を言いやすい職場環境づくりに努めており、職員も意見や気づき・アイデアを出して、話し合い、サービス向上に反映させている。また、職員の意見反映制度も運営適正化委員会で検討され、活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長年に渡る勤務者には、リフレッシュ休暇が取れるようにし、職員の悩み等を聴き、意思疎通を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は順次参加できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に一度、計画作成担当者が代表して、同業者との交流を図り、相互訪問等の活動を通じて、情報を提供し合っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い、本人の思いや不安等を傾聴し話し合いながら、安心してホームを利用することができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査を行い、家族の苦労・不安・思い等を傾聴し、家族が納得し信頼して、事業所を利用していただけよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査を実施した結果に基づき、事業所内で対応しており、他のサービスを利用したことはない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、テレビを観たり、世間話をしながら、できるだけ家族的な雰囲気を作り、各種の作業を協力することで、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に情報交換をして情報を共有し、信頼関係を築いている。また、場合によっては、電話にて近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に支援はしていないが、希望があれば連絡するとともに、家族に關係の継続を呼びかけている。デイサービスにも出かけ、馴染みの人との関係を大切にしている。	家族や利用者から馴染みの人や場所を把握し、家族等の協力も得ながら、利用者が地域社会との馴染みの関係を継続できる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで、食堂の席順を決めている。また、一人にならないよう状況把握に留意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても、特別養護老人ホームへの入所、ショートステイ利用等の説明・相談や、状況の聞き取りを行って、継続的に関わっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前調査において、生活歴や日常生活の状況を把握し、家族を含めて希望・意思の把握に努めている。また、利用者積極的に話しかけ、ニーズの把握に努めている。	利用者や家族の暮らし方の意向や思いを職員が共有し、日々の支援の中で利用者の話を傾聴し、利用者寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前調査とともに、日常生活の中で情報を得る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況に配慮し、申し送りを密にしてチーム全体で把握し、カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、グループ会議時にカンファレンスを行ったり、家族の面会を利用して家族の意見を聴き、介護計画の作成に役立てている。	毎月のグループ会議で担当職員を中心に、モニタリング記録・介護プラン実施表等を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者・家族と話し合い、介護計画に反映し、同意を得るように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、介護記録・介護計画に記録し、申し送りにおいて情報の共有を図り、介護に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と話し合い、一人ひとりのニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2～3回程度ボランティアの訪問があり、法人全体のボランティア訪問にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の定期検診と、突発的な症状の場合には、希望する病院への受診と、かかりつけ医の往診を受けている。	かかりつけ医の受診支援は家族の協力を得て行い、事業所では、月に2回の内科嘱託医、3週に1回の精神科医、週1回の歯科医の口腔ケア往診等で、利用者は適切な医療を受けることができる。受診結果は、利用者・家族・職員が共有できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状変化があれば事業所の看護師に相談し、必要があれば受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の協力を得て、情報交換や相談に努め、入院生活や退院がスムーズになるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を十分に把握し、利用者・家族の意向を考慮したうえで支援をしている。	入居時に、重度化した時は医療を受ける等の説明をして、状況に応じてその都度、話し合いを重ねている。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所のできることや、他の必要な支援はどのようにすれば受けられるか説明ができ、さらに、利用者・家族の希望や意向を聞きながら、関係機関の協力を得られるように体制づくりが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、全職員が内容を理解し、職員会等でも研修を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり、併施設における避難訓練には、参加できている。地域の人々との協力体制は検討中である。	法人全体で年2回の訓練(防火訓練は夜間想定等)を実施し、訓練やシミュレーションに基づいて、連絡・役割・協力の方法をマニュアル化して職員への周知に努めている。	法人全体の訓練に合わせて、特に当事業所における、利用者の確実な避難誘導の方法について確認をしておくことや、災害時の地域住民の避難場所として、地域との連携や協力体制を構築することが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の言葉かけ等は、プライバシーを損なわないよう、思いやりを持った対応を心がけている。また、その人に合った言葉かけにも心がけている。	一人ひとりのプライバシー確保については、日々の声かけや食事・排泄等の支援の中で、その都度職員間で具体的に話し合い、確認し、改善できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを傾聴する中で、納得してもらい、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がどのように日常を過ごしたいのか、希望を聴く努力をし、強制はしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週一回理容師が来ているのでカットをしてもらったり、外出時には衣類の好みを聴き、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園で実った野菜類と一緒に収穫し、食事に添えたり、できることは手伝ってもらい、片付けは当番制で行っている。	季節の旬を大切にして、利用者の嗜好や畑の収穫物を取り入れており、毎食の食事づくりの音や匂い等を楽しめている。利用者の有する能力に合わせて、片付けの当番制やおやつづくり等で、声かけや場面づくりを工夫し、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理のもとで調理をしている。体調や嚥下状態に合わせて調理を工夫したり、栄養バランス・水分量を確保できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、必要に応じて協力歯科医院の医師に相談したり、口腔ケア指導を実施している。義歯の管理は、本人の能力に応じて、職員が行っている。その際は、同意を得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の多い利用者には、その人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や言葉かけを実施している。	利用者の自尊心に配慮した声かけや誘導で、失敗のない排泄支援に努めている。また、夜間の排泄支援は、利用者の習慣や排泄パターンに応じた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向がある場合は、排便チェックを行い、主治医に相談のうえ緩下剤使用を考慮したり、十分な水分補給と運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は希望がなく、昼間入浴している。体調不良等は、事前のバイタルチェックで状態を把握している。	2日に1回、一人ひとりの習慣や意向を配慮した二人ずつの入浴支援は、入浴を明るく・楽しくして、利用者間のコミュニケーションを穏やかなものに行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握しており、リズムを崩さないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的や副作用等を十分理解したうえで状態を把握し、症状に変化があった場合には主治医に相談し、指示を受けている。服薬確認も十分に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割分担や楽しみごと・気分転換等の支援を実施し、できない部分は職員が補っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援を得て、食事に行くなど外出している。事業所としては、全員一緒に野外活動を計画したり、特別養護老人ホームの協力を得て外出支援をしている。	野外での食事や散歩、畑の作業、行事参加等の日常的な外出支援は、利用者の意向に沿うよう努めている。また、家族の協力を得て、帰宅や買い物等の外出をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて、自己管理が事業所で管理するかを決定している。どちらも家族の了承を得ており、自動販売機での購入や買い物などに使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望によりかけている。家族からの電話は本人に取り次ぎ、手紙も直接本人に手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度には十分留意し、温度調節・換気などを行っている。それとともに季節感のある作品を作り、個人の作品も飾り、楽しめるよう工夫をしている。	大きな窓からは、緑の木々や街並み、瀬戸の海景色が望め、小鳥と観音像がある中庭が食堂と居間を分け隔ている。広いウッドテラスや廊下等、解放感のある共有空間は落ち着いた色合いで、利用者の作品や飾りがセンス良く配置され、また、掃除も行き届いており、清潔で居心地良く過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、音楽やラジオを聴きながらゆったりと食事をし、リビングではテレビや娯楽等、自由に利用できるよう考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物を持ち込み、本人に合った居室作りを心がけている。しかし、本人・家族の希望により持ち込まない人もいる。	居室にはベッドと収納箆筒、トイレと手洗いが備え付けられ、その他の家具(テレビ、冷蔵庫やテーブル、写真、人形、花等)は、自由に馴染みの物を持ち込むことができ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じ、家具の位置や方向などを工夫し、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		